



池田名誉会長

光の言葉  
幸福の曲

あすは  
敬老の日

喜び多き

「健康人生」を

2007年9月、東京・八王子市の郊外。大都会の東京にも、ここまで足を延ばせば、豊かな水田の広がる場所がある。

田には稲穂が垂れ、実りの季節を迎えていた。つがいだろうか、2羽の白鷺が、舞い降りてきた。池田名

誉会長がシャッターを切った。

春から夏へ、雨や風、猛暑をしのぎ、秋を迎えた田園風景には、堂々たる風格と優美さがある。人生の幾春秋を勝ち越え、円熟期に達した人もまた、同じであろう。

学会では、その姿で信仰の輝きを

示す年配の友を「多宝会」、「宝寿会」（東京）、「錦宝会」（関西）と呼び、たたえてきた。その先頭に立ってきたのは名誉会長である。

あすは「敬老の日」。全ての人生の大先輩に、最大の尊敬と感謝をさげたい。



香港総合文化センターを訪れた  
折、近隣の老婦人をねぎらい、声  
を掛ける池田名誉会長

私は

「生涯青春」という言葉が  
好きである。

いわゆる若さとは、

決して年齢によつて

決まるものではない。

自分のもつ目標に向かつて、

たくましく生き抜く

情熱の炎によつて

決まると信じているからだ。

どんなに高齢になつても

希望を失わず、

心の若々しい人は

「生涯青春」である。

「体の成長」には

限界があるだろう。

しかし、「心の成長」には

限りがない。

心はどこまでも

大きく、深くなれる。

強く、賢くなれる。

豊かに、優しくなれる。

昔から

「一笑一若」「一怒一老」という。

笑いは健康の源である。

すべてを良いほうへと考え

動かしていけば、

人生は朗らかだ。

「喜び多き人生」こそ

「健康人生」である。

長寿社会とは、

競争よりも協調が

効率よりもゆとりが

物の豊かさよりも心の豊かさ

求められる時代である。

自分が「してもらう」のではなく、

わずかでもいい、

自分には「何ができるのか」を

考える時代である。

人は、どんな逆境もバネとして

「成長」できる。

しかも、自分が苦労した分だけ

他者の「成長」にも

尽くせるようになる。

命ある限り、

皆と励まし合いながら

成長を続けて、

心に多くの宝を積んでいくことが、

幸福な人生の年輪とは言えまいか。